

感 染 症

相双地域感染症発生動向調査週報(2025年第22週)

(令和7年5月26日～令和7年6月1日)

令和7年6月5日

定点報告(上段: 定点当たり／下段: 報告数)、全数報告(報告数)		2025年					2024年 合計	2023年 合計
区 分	疾 病 名	19週	20週	21週	22週	合計		
定点報告	インフルエンザ	1.67	－	0.33	0.33	－	－	－
		5	0	1	1	1,215	1,616	2,660
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	－	1.00	－	－	－	－	－
		0	3	0	0	823	3,622	2,663
	RSウイルス感染症	－	1.50	0.50	0.50	－	－	－
		0	3	1	1	76	309	425
	咽頭結膜熱	－	0.50	1.00	0.50	－	－	－
		0	1	2	1	37	337	129
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	0.50	－	2.50	－	－	－
		1	1	0	5	137	657	237
	感染性胃腸炎	2.50	6.50	2.00	2.00	－	－	－
		5	13	4	4	400	610	988
	水痘	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	2	6	1
	手足口病	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	5	952	129
	伝染性紅斑	0.50	1.00	2.50	2.50	－	－	－
		1	2	5	5	30	0	8
	突発性発しん	0.50	－	－	1.00	－	－	－
		1	0	0	2	37	182	266
	ヘルパンギーナ	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	19	319
	流行性耳下腺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	8	13	15
	急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	1	9	13
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1.00	4.00	－	－	－	－	－
		1	4	0	0	13	1	3
	クラミジア肺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	1.00	－	－	1.00	－	－	－
		1	0	0	1	4	16	1
	無菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	14	19	10
	新型コロナウイルス感染症(入院)	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	23	120	19
	急性呼吸器感染症(ARI)	48.00	78.00	73.33	82.33	－	－	－
		144	234	220	247	1567	－	－
全数報告	つつが虫病	0	1	0	0	1	1	0
	百日咳	3	2	5	2	18	0	0

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	<u>伝染性紅斑</u> の 流行が見られます。
全数把握疾患	<u>百日咳 2名（10代2名）</u> の報告がありました。

インフルエンザ	相双地域は前週と比較して横ばいであり、県(県内総数)は前週と比較して減少しました。 今シーズンで既に罹患した方でも再び感染することがあるため、引き続き体調管理に留意するとともに、手洗いや定期的な換気等、基本的な感染対策をお願いします。
新型コロナウイルス感染症	相双地域は前週から報告なしであり、県(県内総数)は前週と比較して減少しました。 台湾、中国、東南アジアで新しい変異株の流行が見られているので、渡航の際は注意しましょう。インフルエンザと同様、体調管理や基本的な感染対策をお願いします。
伝染性紅斑	相双地域は前週と比較して横ばいであり、県(県内総数)は前週と比較して減少しました。警報は続いています。 伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症です。感染経路は飛沫感染や接触感染で、約10日の潜伏期間の後、発しんが両頬から体・手・足に拡がります。予防には手洗いや、マスク着用等の咳対策が必要です。
百日咳	百日咳(全数報告)については、本県で27名報告がありました。 百日咳菌によって引き起こされる、激しい咳を伴う病気です。特に乳児では重症化のおそれがあり、早期のワクチン接種を推奨します。乳児のいる家庭では、保護者を含めた家庭内の感染に注意しましょう。 感染経路は飛沫感染や接触感染とされており、手洗いやマスクの着用など基本的な感染対策が有効です。
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症(全数報告)については、本県で1名報告がありました。 血液、筋肉、肺等に侵入したレンサ球菌が、まれに急激な症状の悪化を来す感染症です。初期症状には、発熱、悪心、四肢の痛み、傷の発赤、腫れが見られます。急速に症状が悪化した際は、直ちに医療機関を受診してください。
侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症(全数報告)については、郡山市で1名報告がありました。本県で10年ぶりの報告となります。 髄膜炎菌が血液や髄液に侵入することで4～10日で発症し、頭痛、発熱などの風邪様の症状から短時間で重症化し、意識障害やけいれんが起こります。主な感染経路は飛沫・接触感染であるため、同居者、濃厚接触者については経過観察が必要になります。

(参考・引用) 福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2025年第22号